

荻窪病院だより

1階の採血室で採血を行うスタッフ



中央検査科
科長 坂本則男

中央検査科では採血の他に、臨床検査技師がエコー・心電図などの生理機能検査、病理検査、医学検査を行っています。

※68577件 (2020年度実績)

「PCR検査」について、中央検査科の坂本則男科長に話を聞きました。

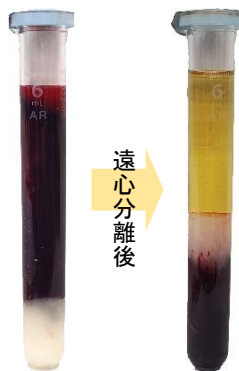
病院で一番多い検査「採血」と、「コロナ診断」に必要な「PCR検査」について知ってほしいとちよひのためになる話

Q 一度に何本も採血される
ことが多くいけれど、なぜ?

検査目的によって使用する薬剤がちがうため、専用の採血管ごとに採血します

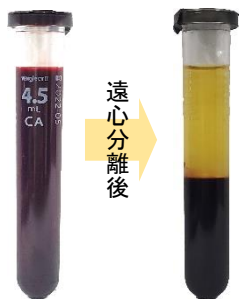
採血管の本数が増える理由として単に必要な検査項目が多い場合もありますが、その他の理由として ①血漿検査や全血検査が多い ②血液型や輸血関連の検査がある などが挙げられます。血液は通常赤い液体に見えますが、その中身は赤血球や白血球、血小板といった血球成分と血漿という液体成分の二つの成分からできています。また、血液は体外に出ると凝固といって自然と固まる性質があり、血液を凝固させてから得られる液体成分を血清と言います。血液検査はこれらの成分や性質を利用し大きく分けて『血清検査』『血漿検査』『全血検査』の三種類に分類されます。検査を行う際はこれら三種類

を使い分けるのですが、血漿検査と全血検査で使用する血液を固まらせない薬(抗凝固剤といいますが)は検査内容によって種類や量が異なり、専用の採血管を使用するため本数が増えてしまいます。また、血液型や輸血関連の検査は、安全性の面から他の検査と共用せず専用の採血管を使用するのが原則なので、この場合も採血管の本数が増えてしまいます。



血清検査 (青キャップ)

検査内容…AST、ALT、中性脂肪、コレステロール、感染症検査、内分泌検査、腫瘍マーカー
特徴…血液を凝固させてから遠心分離を行い、血清を使用する



血漿検査 (黒キャップ)

検査内容…PT、APTT、フィブリノーゲン、Dダイマー等
特徴…抗凝固剤(クエン酸ナトリウム)を加えてから遠心分離を行い、血漿を使用する



血漿検査 (灰キャップ)

検査内容…血糖、HbA1c
特徴…抗凝固剤(EDTA-2K)と解糖阻止剤(フッ化ナトリウム)を加えてから遠心分離を行い、血漿と血球を使用する



全血検査 (紫キャップ)

検査内容…血球算定(赤血球数やヘモグロビン濃度)
特徴…抗凝固剤(EDTA-2K)を加え、そのまま使用する

Q 採血しやすい血管、どの血管と違うのは、ある？

あります。スタッフが左右の腕を見比べていたら、いつも採血の場所を教えてください

採血で使用する血管（静脈）

の位置や走行は、顔や手相のように人それぞれ違います。

特に静脈は走行のバリエーションが多いので、必ず決まった位置にあるというものでもありません。

採血時、腕を見た時に太く目視で確認できる血管や脈管帯で縛った際に怒張し触知できる血管があれば採血はしやすいのですが、それらが見つからない場合は細い血管や深い位置にある血管など採血しにくい血管も対象に探さなければなりません。

採血時に検査スタッフが左右の腕を交互に見ている場合は、血管を探していることが多いのでこのような時はいつも採血している位置を教えてくださいと探す範囲を絞ることができると、とても助かります。

Q 採血後に気を付けたいことはありますか？

内出血を起こさないために穿刺部の圧迫はしっかり行いましょう

一番気をつけていただきたいことは穿刺部の圧迫による止血です。この動作を怠ってしまうと血液が漏れ内出血を起すことがあります。この動作を怠ってしまったり場合によっては、もちろん採血時に針の位置が悪く内出血してしまうこともあります。採血後の圧迫が弱いと血液が漏れ出し衣服に付着してしまう場合もありますので、採血後3分間は揉まずにしっかり押さえるようお願いいたします。

また、抗血栓薬（血液をサラサラにする薬）を飲んでいる方は血液が固まりにくくなっていますので、採血後は3分間より長めに

圧迫するようにお願いいたします。



24 時間体制で迅速に行う PCR 検査で地域医療に貢献します

感染対策のため防護具を着用して、検体に試薬を注入するスタッフ



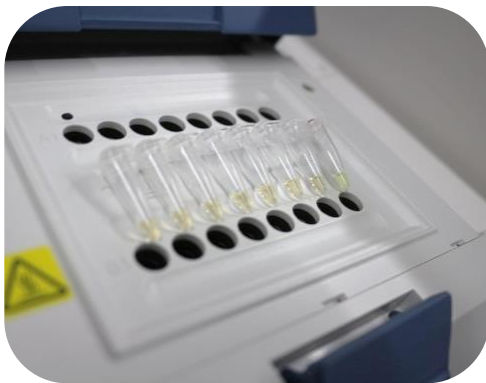
当院では1回目の緊急事態宣言以降、院内で新型コロナウイルス

核酸検査（PCR検査）が実施できるよう準備を進め、20年9月より2台の検査装置（全自動遺伝子解析装置、等温遺伝子増幅装置）を導入。発熱外来受診者様の検査結果報告時間の短縮に努めるとともに入院時スクリーニング検査を開始し、院内感染対策に取り組んでいます。

また20年12月から、検査装置を増設して一度に検査できる数を増やし、発熱外来・PCRスポット受診者様の検査結果を当日夜間まで

に報告できる体制を整えました（受診者様が多い場合は、報告が翌日以降になることもあります）。

PCR検査はコロナ陽性検体を扱うため、外部にウイルスが漏れないよう専用の検査スペースで行い、10μL（1リットルの10万分の1）と非常に少ない試薬・試料を取り扱うため常に細心の注意を払いながら検査を行わなければなりません。院内感染対策や救急医療など少しでも地域に貢献できるよう24時間体制で対応しています。



PCRは微量のウイルス等の遺伝子を増幅させて、検出する検査です。写真は試薬を入れ、検査機にセットする前の状態。

Ogikubo Hospital

理念

患者さんへ安心で信頼される医療を提供します。
職員へやり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。

基本方針

1. 急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
2. 個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
3. 豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
4. 経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。

